

講師：本間康夫氏（崇城大学名誉教授）
出演：アイリッシュ・ユクリームとヨーロトリの皆さん
演題：『アイリッシュ・ユ音楽の旅』

熊本アイルランド協会第26期市民講座 年間テーマ『旅する心優しきアイルランドの人々』

ラフカディオ・ハーンの父方のルーツはケルト（アイルランド）の民人であった。この民族のルーツはヨーロッパの臍（へそ）とも言うべき現在のオーストリア、ザルツブルク近郊の山中にあった。そして彼らは此処から西に向かって壮大な旅（移動）に出ていくのである。

ケルトの民は旅する民であった。ボヘミアンとも言われ、貧しくも力強い「流浪の民」であった。途上で出会ったラテン（ローマ）の軍勢に百戦百敗してイベリア半島に逃れ、遂に海を越えて北上し、ブリトン島（現在のイギリス）の周縁部にたどり着いた。現在のスコットランド、ウェールズ、アイルランドである。

旅する民は組織的な戦や国家形成・維持などは苦手であった。しかし芸術を生み出し、これを伝承していく文化力はすぐれていた。この心は詩や歌に託され、絵や踊りを演劇に結実して今日に伝えられている。

ハーンはその血を受け継いでいたと思われる。美しい散文は誌的で、民族の魂が込められた民話や説話や諺などへの愛着は大きかった。私たちの知る『怪談』や『骨董』はこの心から生み出されたものであった。

この市民講座では、熊本に約三年間いたハーンの心に繋がってアイルランドの心を皆様とともに楽しみたいと思います。皆様ぜひお越しください。

講師からひとこと

年間テーマ：「旅する心優しきアイルランドの人々」にちなみ、世界各地に広がるアイリッシュ・ユ音楽の旅をお楽しみください。ケルト音楽は、ケルト語圏のアイルランド、スコットランド、ウェールズ、ブルターニュ（フランス）、ガリシア（スペイン）などの地域で多様に受け継がれている音楽です。また、アイリッシュ・ユ・スコティッシュ・ユが何百万人も移民したアメリカ東海岸やカナダ東部などにもケルト音楽が定着、発展しています。その他の国々でも独自に発展を続け今も広く演奏されています。現代のロック音楽は、アメリカのカントリー・ミュージックから強い影響を受けていますが、カントリー・ミュージックもルーツをたどればブリテン島やアイルランドの音楽であり、現代のポピュラー音楽の源泉であるともいえます。

今回の講座ではイングランド、スコットランド、フランス、スウェーデン、フィンランド、アメリカ、カナダ、及び現代のアイルランドへと続くアイリッシュ・ケルト系音楽、そして明治から現代に至るまで日本の音楽文化に影響を与えたアイリッシュ・ミュージックを、演奏を交えてご紹介します。

（本間康夫）

期日：令和6年5月25日（土）13:00より（時間変更） 参加費：無料

会場：お菓子の香梅 帯山店ドウ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

次回 令和6年6月29日（土）於：お菓子の香梅 帯山店 14:00より

西川盛雄（熊本大学名誉教授）「流浪の民＝ケルト民族＝」

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは熊本アイルランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org